

第2回 横浜市戸塚区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会（2日目）議事録	
日 時	令和7年3月25日（火） 午後1時から午後3時50分まで
開 催 場 所	戸塚区役所8階大会議室B
出 席 者	【選定委員会委員】 委員長 西尾 敦史（愛知東邦大学 人間健康学部 人間健康学科 教授） 委員 落合 清子（戸塚区保健活動推進委員会 会長） 木村 サチ子（踊場地区民生委員児童委員協議会 元会長） 中嶋 伴子（とつか区民活動センター センター長） 中瀬 明德（東戸塚地域活動ホームひかり 施設長） 福本 雅美（戸塚区地域子育て支援拠点とつとの芽 施設長） 本庄 里実（東京地方税理士会戸塚支部 会員） 【事務局】 戸塚区福祉保健センター長 内田 沢子 戸塚区福祉保健センター担当部長 緑川 斉 戸塚区福祉保健課長 佐藤 修一 戸塚区福祉保健課事業企画担当係長 平野 亜由子 戸塚区福祉保健課事業企画担当 秦 杏介、前原 淳史、小澤 朋之
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開（応募団体の面接審査、指定管理者の候補者（以下、「指定候補者」という。）及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者（以下「次点候補者」という。）の選定に関する審議について非公開。なお応募団体の面接及び質疑応答は、他の応募団体に情報が漏れないことを確認したうえで公開）（傍聴者なし）
議 題	1 事前確認事項 2 応募団体の面接審査 （1）応募団体の面接審査 （2）本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 3 指定候補者及び次点候補者の選定、講評
決 定 事 項	指定管理者の候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市戸塚区長に報告することとする。 1 横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会 次点候補者：なし 2 横浜市南戸塚地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者

	指定候補者：社会福祉法人 朋光会 次点候補者：なし 3 横浜市下倉田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人 開く会 次点候補者：なし
議 事	<u>1 事前確認事項</u> 事務局から、公募の結果本会で審査する3施設（横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ、横浜市南戸塚地域ケアプラザ、横浜市下倉田地域ケアプラザ）については各1団体から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の3点について確認した。 ○委員会の公開・非公開 応募団体審査、指定候補者及び次点候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認。（第1回委員会で審議済み） ※なお、応募団体の面接（プレゼンテーション及びヒアリング）は、面接審査を受けている団体以外の応募団体を除き公開。 ○面接審査の進め方及び質問項目の確認 （事務局） ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。 ・1施設に対して1団体のみの応募となっている施設については、最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。 ○応募団体の資格要件等について （事務局） ・資格要件を満たすこと、欠格事項に該当しないことを報告。 ・欠格事項のうち、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。 <u>2 応募団体の面接審査</u> ア 横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ (ア) プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明 (イ) 主な質疑応答 (委員) シニア男性の活動の場づくりについて、女性と比較すると場所の数や参加率が低い傾向と思うが、男性の参加の実績や、参加後はどの程

	度地域活動へのデビューにつながっているか、また、周知方法について伺いたい。 それとは別に、チューリップホルダーの取組について、役立った取組があれば伺いたい。 (団体) 男性の地域デビューは、男の教室という事業を開催することによって支援していて、人気の講座では約 20 人の参加がある。参加後の OB が集まって、男性の地域デビューを考える会 (OB 会) を立ち上げたところ、現在 15 人程度メンバーがいて、毎年増加している。周知については、OB 会でプログラムの検討を行い翌年度の講座を決定し、貸館利用団体の来館時にチラシを配っている。また、女性にも配り、夫婦で講座情報を共有していただくこともしている。 チューリップホルダーは団体全体の取組として作成しているもので、事業所ごとに最寄りの地域ケアプラザの連絡先と利用者番号、利用契約時に交付する利用フローを記載したものをホルダーに入れている。緊急時の通報の実績数値は把握していないが、団体全体で年間に複数件の通報があることは認識している。 (委員) 施設を多数経営されているが、そのメリットを生かした取組はあるか。 (団体) 21 か所の地域ケアプラザを運営している。月に 1 度管理職会を開き、地域ケアプラザに限らず、他の事業所の管理職を集めて情報共有する時間を設けている。この管理職会を開催する日に併せて、地域ケアプラザ所長会も開催している。 現場で発生した事例をとりまとめ、改善策等を検討することができるのは強みだと考えている。また、各分野の専門職の力が発揮できるよう、専門職の分科会を設置し、こちらも毎月集まって事例検討等を行っている。 (委員) エリア内に障害者施設が多いということだが、取組として考えていることがあれば伺いたい。 (団体) 地域の障害者施設の運営推進会議に参加しているほか、毎年開催している地域ケアプラザまつりに出展していただく面では交流があり、協働する体制でいる。また、外部の方に出席いただく会議等で、障害者施設で作製したクッキーをお渡しして、活躍を周知している。今後も地域住民と施設をつなぐパイプ役になりたい。 (委員) 若い世代が少ないエリアだと思うが、こども食堂等、若い世代向けに開催したイベントへの参加者へ、今後の担い手として活躍していただくための仕掛けづくりや、工夫していることがあれば伺いたい。 (団体) こども食堂は 2016 年から立ち上げている。元々は地域の民生委員の自宅での取組であったが、拡大して地区との共催となり今に至る。
--	--

	これまで食事に来ていたこどもたちが、今はボランティアとして協力してくれている。また、定期的に何気なく来館される障害者の方や、ひきこもりがちになっているこどもにもこども食堂を案内したところ、少しずつ来ていただけるようになった。地域内での馴染みある取組になってきていると感じる。 (ウ) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 事務局から本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況及び前期の指定管理業務（職員配置状況）について説明。 本庄委員から財務分析結果報告書について説明。 イ 横浜市南戸塚地域ケアプラザ (ア) プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明 (イ) 主な質疑応答 (委員) 施設の感染症対策で取り組んでいることがあれば伺いたい。 (団体) 職員、デイサービス利用者ともに石鹸を使用した手洗い、定期的な換気を行い、基本的な感染症対策を徹底している。 (委員) 父親が参加しやすい子育て支援事業について、具体的な内容・テーマ設定で現在計画していることがあれば伺いたい。 (団体) 現状土曜日開催であるが、厳密に父親限定にはしていないので、母親が参加することもある。7か所の地域ケアプラザで合同開催しており、イモ掘り体験してもらう事業を開催したが、そのほかに身体を使った遊びは父親限定にしている事業もある。当施設のみで実施する場合は、フリースペースとして部屋を開放していて、家庭では置けない玩具を置いたりして、楽しんでもらっている。 (委員) 南北に広い圏域で、駅に近いエリアはこどもや子育て世代が多く、地域ケアプラザに近いエリアは比較的高齢者が多いと思うが、住民層が異なる地域の中で事業を展開した際に、見込んでいる参加者と実績の乖離がないか、またアウトリーチ事業の計画で検討していることがあれば伺いたい。 (団体) 子育て世代の参加促進について苦戦をしているのは事実。コーディネーターが企画進行管理しているが、限られたマンパワーでは、参加促進の仕掛けが困難な部分がある。こどもの居場所づくりについては、地区社会福祉協議会との連携を図り、進められていると感じている。 (委員) 人材育成についての考えについて伺いたい。
--	---

	(団体) 地域ケアプラザは様々な相談を受け付ける機関なので、その相談を受け止められるだけの知識・技術が求められる。育成に関しては、研修の受講がすべてだと考える。自己研鑽のために他の専門分野の研修を受講することについても、必要と判断できれば、積極的に受講を勧めたい。 (委員) 地域ケアプラザの立地的に、地域ケアプラザへの行きにくさがあると思うが、施設へのアクセス方法に手立てはあるのか。 (団体) どの方面から来ても坂の上の立地であるため、一番の課題だと捉えている。同団体の中で老人福祉センターの運営をしていて、地域ケアプラザまでの移動支援車両の配置を計画していたことがあった。地域ケアプラザのまつりを開催する際は、坂の始まりから施設まで送迎バスの手配をしたことがある。施設利用者の大半が後期高齢者のため、坂道の課題については、全職員で課題感をもっているところだが、送迎バスの手配ができることが望ましいと考えている。 (委員) ボランティア人材の確保の考え方について伺いたい。 (団体) ボランティアの受入は増加していて、勤務先を定年退職したばかりの比較的若い世代が多かった。今後も引き続き相談者の希望に沿った受け入れを進めていきたい。 (委員) 戸塚区は明治学院大学があり、学生のボランティアを募ることができれば、福祉に関心を持つ機会の提供ができるのではないかな。 (団体) 今後検討する。 (ウ) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 事務局から本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況及び前期の指定管理業務（職員配置状況）について説明。 本庄委員から財務分析結果報告書について説明。 ウ 横浜市下倉田地域ケアプラザ (ア) プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明 (イ) 主な質疑応答 (委員) 団体の運営面での収支に関して、困っていることがあれば伺いたい。 (団体) 団体としては余裕があるわけではない。人材募集の周知をするだけでも相当な金額の登録料がかかるため、即時に赤字経営に転落しかねない。人材の流出を防ぐために、積極的に人材育成を行っている。 (委員) 民生委員が地域ケアプラザに、発生した事案を相談した際に、結果のフィードバックがなかったという話があった。状況についての情報共有は確実にお願いしたい。
--	---

	(団体) 相談をいただいた事案の結果共有は、必ずできるような体制づくりをしている。今後も引き続き行う。 (委員) 地域の支えあいを構築することに関して、地域ケアプラザの自主事業から活動団体を立ち上げて、自主化するまでの間で工夫していることがあれば伺いたい。 (団体) いきなりの自主化は困難なので、半年程度の時間をかけて活動が軌道に乗るまでの間、活動場所の予約等の後方支援を行っていて、それに並行して、活動団体のキーパーソンを見出して、団体活動における参加メンバーへの役割分担を依頼している。 (委員) 後方支援においての課題を伺いたい。 (団体) キーパーソンが見つからない場合は、自主化が困難になる。分担を細分化するなど、各個人の負担感を減らし主体性をもたせることで、自主化に結び付けられるように努めている。 (委員) 地域の状況として、少子高齢化が顕著になっているということだが、ダブルケア・ヤングケアラー等の状況はどのように把握するようにしているか伺いたい。また、立地として圏域の端にある地域ケアプラザなので、アウトリーチ事業の考え方についても伺いたい。 (団体) きっかけは、ケアマネジャーへの相談があることで把握している。表面化していない事案は、民生委員の訪問による実態把握等から報告をいただいている。その他に地域住民からも、最近見かけない方がいて心配という声をいただくことがあるので、地域の見守り体制がある地域だと感じている。 (委員) 受け手側になる方にも力が発揮できるような機会の創出に関しては、国で掲げる地域共生社会の考え方に近い部分を感じ取れた。また、施設の中での専門職のあり方についても、住民や利用者とのかかわりの中で得られるものが多くあるのだということを感じ取れたが、具体的な所感があれば伺いたい。 (団体) 当団体は障害者施設の運営が起源で、団体の理事長の理念として「歩けない方のための思考の車いすとなること」「最終的な意思の決定は本人にさせること」というところから、利用者本人を中心とした運営支援を基本的な考え方としている。上下関係ではなく、そのような方に対して、お互いにできることを確認しあって、施設を生き生きと利用していただけるよう努めている。 (ウ) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 事務局から本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況及び前期の指定管理業務（職員配置状況）について説明。 本庄委員より財務分析結果報告書について説明。
--	---

3 指定候補者及び次点候補者の選定、講評

応募者から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

(1) 横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準 得点／基準点
指定候補 者	社会福祉法人 横浜市 福祉サービス協会	1,372／1,600 点	1,307／885 点
次点候補 者	なし	-	-

- (審査講評)・夜間の施設利用稼働率向上の工夫という点で、ふれあいサロンやこども食堂の取組、法人独自取組を伺えたことは評価できる。
- ・作成していただいた資料についても読みやすく、写真等もあり工夫がみられた。
 - ・圏域の端にある地域ケアプラザなので、立地的には人口の密集地周辺でもなく、若い世代でもアクセスしにくい方も多くいるのではと感じる。アウトリーチ事業の展開手法などに具体性があるとなおよかった。
 - ・新興のマンションがある一方で、団地もあるのでエリア内でも住民層が異なる。福祉的な課題が多いエリアであることが感じられた。
 - ・現在の新興マンションに住む住民が高齢化した際にすぐに地域につながれるのか、今のうちから地域とつながっていくことが重要ではないかと感じた。各コーディネーターの今後の取組に期待したい。
 - ・高齢化率が増加している一方で、高齢者数が減少しているという地域の実態を話していただいたが、珍しい統計であると感じた。時間があれば詳しく伺いたかった。

(2) 横浜市南戸塚地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準 得点／基準点
指定候補 者	社会福祉法人 朋光会	1,259／1,600 点	1,199／885 点
次点候補 者	なし	-	-

(審査講評)・プレゼンテーション内容は、比較的概要に関することからの説明が多く、もう少し具体性を取り入れていただけるとよかった。

・課題感の解決手法等、質問の回答としては具体的な明言がされていないように感じた。

・若い世代の父親の参加促進に関しては、熱量を感じた。地域とのつながりの面では、とつかハートプランでも重要な取組としているので、努力していただきたい。

・災害時のボランティア育成に関しても時間があれば取組の進め方や考え方を具体的に伺いたかった。若い世代でもマンション等の居住者でも共通する課題であると考ええる。

・戸塚町ふれあいポイントの取組は、各商店での金銭的な面での課題や、周囲の私費の負担が無いものだとなれば、ポイントを貯めることが地域とのつながりに直結していて、とてもよい取組であると感じた。しかし、人の動きとして地域ケアプラザに近い位置に住む方が駅方面に向かっていくことがあっても、その反対がイメージしにくい。

(3) 横浜市下倉田地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準 得点／基準点
指定候補者	社会福祉法人 開く会	1,330／1,600 点	1,265／885 点
次点候補者	なし	-	-

(審査講評)・団体の理事長が掲げる理念の実現に向けて、きめ細かい支援を行っていることが感じ取れた。施設長が理念を理解し、行動に移せていると思うので、その姿勢が職員まで行き渡っているのであれば、とてもよいと思う。

・同団体の別日のプレゼンテーションでは理念に関する具体的な説明は少なかったし、プレゼンテーション内容も重複していなかったもので、それぞれの施設ごとに資料作成しているものと理解した。

・理念の実現に向けて共感した職員が日々勤務しているということであれば、職員のモチベーション維持や、離職の抑止にもつながり、よい影響を与えているものと考ええる。

・理念が地域への関わり・支援に正しくつなげているという点を確認でき感心した。

	各応募団体の得点は、いずれも最低制限基準の 60%以上であるため、選定委員会として社会福祉法人横浜市福祉サービス協会ほか 2 団体を指定候補者として選定することを決定する。
資 料 特 記 事 項	<u>1 資料</u> (1) 面接審査について（資料 1） (2) 各種照会結果について（資料 2 及び資料 3） (3) 各施設への応募関係書類（一式） (4) 前期の指定管理業務の実績報告書（一式） (5) 採点表（一式） <u>2 特記事項</u> 特になし